

インテリア空間における観葉植物の実態について

1. 研究の背景と目的

近年、観葉植物には人工の観葉植物が天然の観葉植物と見分けがつかないほどクオリティが上がってきている(図1)。そこで用途が異なる空間や店舗を調査し、観葉植物と人工観葉植物がどのように使い分けられているのか植物の実態について明らかにする。



図1 左：天然の観葉植物 右：人工の観葉植物

2. 研究の流れ

研究対象は様々な境遇に置かれている人々が日々利用する、「飲食店」と「公共施設」この2つの項目に大きく分けて調査する(図2)。



図2 飲食店に置かれている植物と公共施設に置かれている植物

3. 調査方法について

調査エリアは、愛知尾張地方(名古屋市、尾張、知多半島)とし、2の項目それぞれ50店舗ずつ現地調査と聞き取り調査をした。

4. 飲食店の空間調査

4-1 目的：身近にある飲食店に置かれている観葉植物の実態について、また観葉植物と人工植物の設置方法についても明らかにする。

方法：飲食サービス業の店舗を対象に①食堂、レストラン②専門料理店③そば・うどん店④すし店⑤酒場、ビヤホール⑥喫茶店⑦その他の飲食店に分け、合わせて50ヶ所調査をした。

4-2 飲食店の結果

- ・人工の観葉植物設置率は天然の観葉植物よりも多くを占めると予想していたが、天然の観葉植物の半分にも満たなかった(図3)。
- ・観葉植物を置かない選択をしている店舗が多い。
- ・床に置かれている植物は天然の観葉植物が90%を占めた(図4)。
- ・天井や壁の部分にある観葉植物は全て人工の観葉植物である。

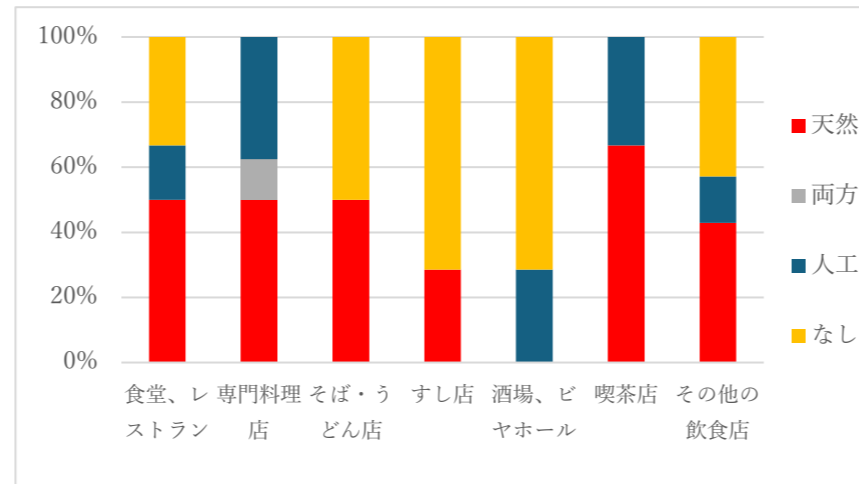


図3 各分類の調査結果

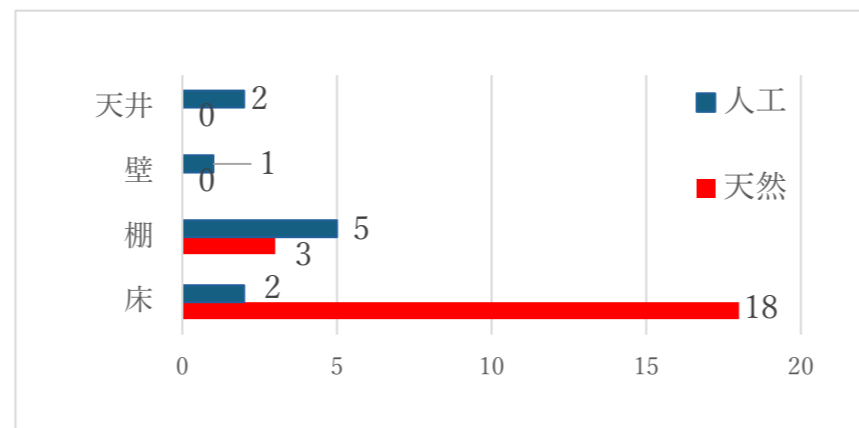


図4 飲食店の観葉植物設置場所

滝本研究室 (インテリアプロダクト分野) A21AB051 蟹江春華
4-3 飲食店の考察

- ・飲食店で天然の観葉植物が人工の観葉植物より割合が大きいのは空気洗浄などの効果があるからだと考えられる(図5)。
- ・喫茶店で天然の観葉植物が人工の観葉植物より多くの割合を占める要因として、飲食の他に簡単な作業や読書や会話を楽しむなど、比較的長時間人が滞在するため、リラックス効果や空気洗浄効果が求められているからだと考えられる(図6)。
- ・天井、壁に人工観葉植物が設置されやすいのは人の手が触れにくくメンテナンスの負担を抑えるためだと考察出来る(図7)。



図5 天然の観葉植物



図6 喫茶店の観葉植物



図7 天井や壁を装飾する人工観葉植物

5. 公共施設の空間調査

5-1 目的：特定の機能やサービスを目的とした公共施設に置かれている観葉植物の実態について、また観葉植物と人工植物の設置方法の関係についても明らかにする。

方法：公共施設の空間では①行政関連施設②教育・文化施設③医療・福祉施設④スポーツ・レクリエーション施設⑤交通・インフラ関連施設に分け、合わせて50ヶ所調査をする。

5-2 公共施設結果

- ・観葉植物なしが全体の半分以上を占める(図8)。
- ・医療や福祉施設では人工の観葉植物が置かれていた(図8)。
- ・床に天然の観葉植物9か所と人工の観葉植物7か所と結果に違いが出なかった(図9)。

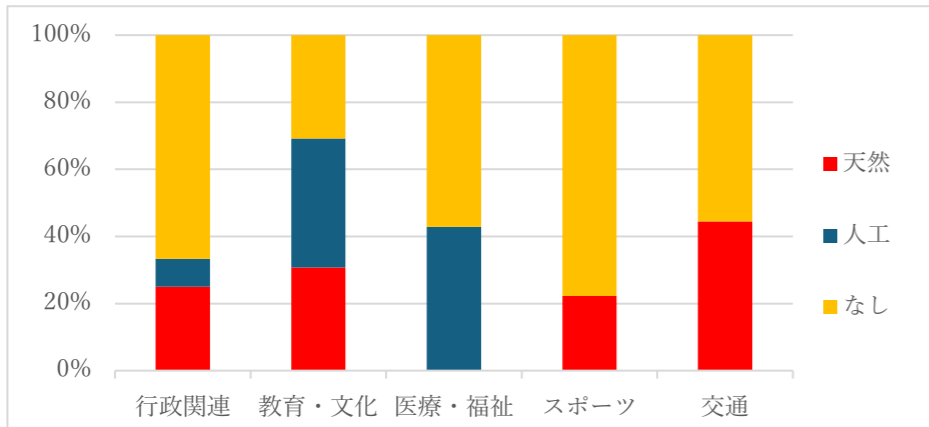


図8 各分野の調査結果

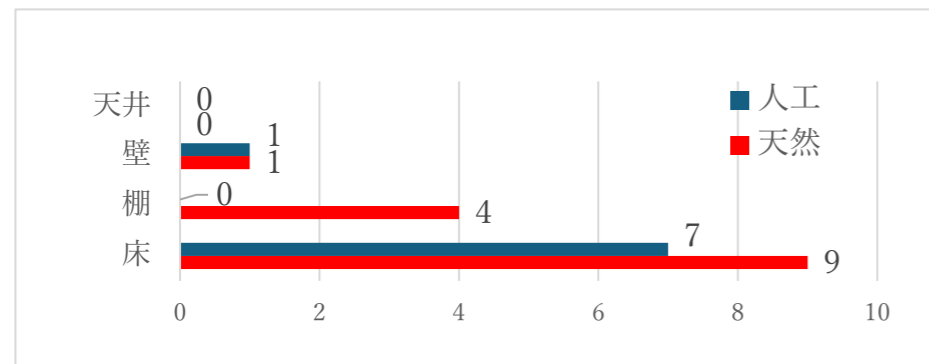


図9 公共施設の観葉植物設置場所

5-3 公共施設の考察

- ・公共施設であまり観葉植物が置かれていない要因として、管理コストの問題で業務や市民サービスが目的のため、観葉植物などの装飾に予算をかけていないことが考えられる。
- ・教育・文化施設で観葉植物が多い傾向にあるのは、沢山の人が長い時間をそこで過ごすのに無機質になりがちな建物に温かく親しみやすい空間にするために設置されていると考えられる(図10)。
- ・医療・福祉施設に天然の観葉植物が設置されない57%、人工の観葉植物

が43%置かれているのは身体が不調の方や穏やかに過ごしたい方に対して、アレルギーや衛生面の懸念、香りなどの配慮だと考えられる(図11)。

・棚の部分に観葉植物が多く見られるのは床を汚さずに交換しやすくお手入れしやすいからだと推測できる(図12)。



図10 教育・文化施設の植物 図11 医療・福祉施設の人工観葉植物



図12 棚に置かれている観葉植物

6. 飲食店と公共施設の相違

表1 飲食店と公共施設の相違比較

飲食店	公共施設
1.店舗によりばらつきあり	1.施設ごとの規模によって変わる
2.店主の好みも影響する	2.決められたものを設置
3.装飾や雰囲気作りにも積極的	3.業務優先で装飾や雰囲気作りには消極的
4.見た目を重視	4.アレルギーや管理のしやすさなどを重視

飲食店では、観葉植物をはじめとした様々な装飾で空間を彩っていた。一方、公共施設には国や地方団体が公共の利益のために運営しており、業務優先で装飾や雰囲気づくりを優先されていなかった。飲食店よりも観葉植物が置かれていなかった理由として、管理コストの問題や利用目的との優先順位の他にアレルギーや衛生面の懸念、利用者の多様性にも違いがある。香りや見た目に対する好み異なる人々への配慮が必要になるのだ。

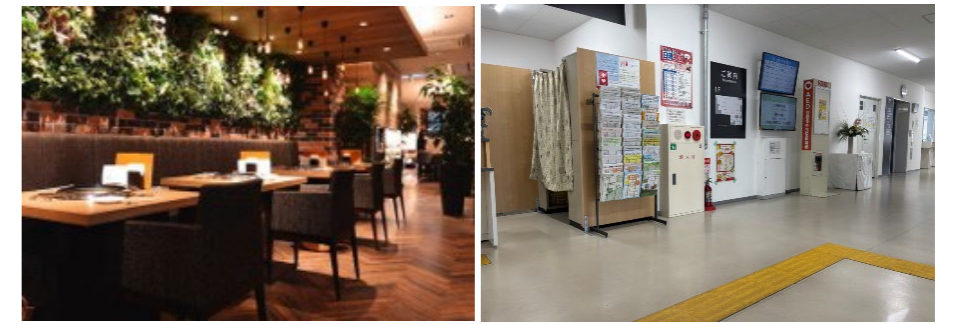


図13 飲食店と公共施設の違い

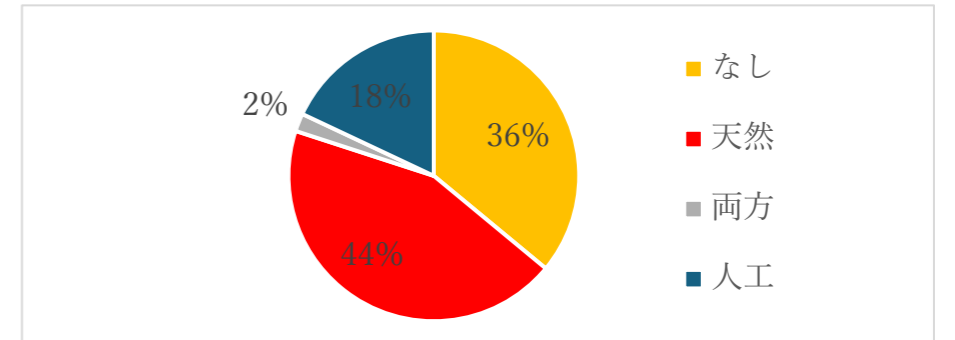


図14 飲食店の植物実態について

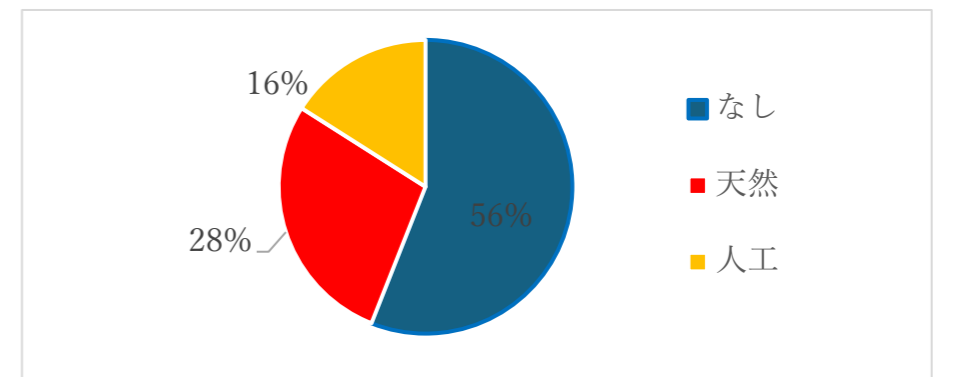


図15 公共施設の植物実態について

7. まとめ

本研究では屋内緑化が進んでいる今の観葉植物の実態について明らかにできた。飲食店では様々な箇所に観葉植物などが設置され装飾や雰囲気作りにも力をいれ集客していたが公共施設では人を集める必要がなく業務優先となるため観葉植物などの装飾が壁や天井にはなく床、棚に設置されていることが明らかになった。店舗や施設では空気洗浄などの効果がある天然の観葉植物が多く設置されていた。飲食店空間では植物を設置しない36%に対して公共施設空間では56%と半数以上が設置していなかった。飲食店サービス業の人工植物18%と公共施設の人工植物16%と結果があまり変わらなかったのは、共通して衛生面とメンテナンスの心配がないからだと改めて明らかとなった。